



# 東京大学生協 本郷書籍部

法律書 Ranking

2016.8.1~8.31



『刑事事例演習教材  
〔第2版〕』

井田 良ほか  
(有斐閣 本体¥2800)



『事例で考える会社法  
〔第2版〕〔法学教室  
ライブラリィ〕』

伊藤靖史ほか  
(有斐閣 本体¥3500)



『「憲法上の権利」の  
作法〔第3版〕』

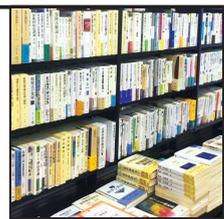
小山 剛  
(尚学社 本体¥2500)

- 4位 『憲法の地図』  
大島義則 (法律文化社 本体¥2000)
- 5位 『判例講座 刑事訴訟法 捜査・証拠篇』  
川出敏裕 (立花書房 本体¥3400)
- 6位 『行政法ガール』  
大島義則 (法律文化社 本体¥2400)
- 7位 『憲法解釈論の応用と展開〔第2版〕』  
尖戸常寿 (日本評論社 本体¥2700)
- 8位 『事例演習刑事訴訟法〔第2版〕〔法学教室ライブラリィ〕』  
古江頼隆 (有斐閣 本体¥3200)
- 9位 『事例から行政法を考える〔法学教室ライブラリィ〕』  
北村和生ほか (有斐閣 本体¥3400)
- 10位 『統治機構の憲法構想』  
大石 真 (法律文化社 本体¥7200)

夏休み期間、  
定番のテキストと  
演習書が好調。

神谷 勝

法律書担当



・店員から

6年振りに本郷書籍部に戻って書籍供給の減少にショックを感じました。「法科大学院」の在りようが大きな影を落としていること、弁護士になっても活躍する場が限られていることも法学部人気の低下につながっているのでしょう。

店舗の中で、Amazonに在庫があるかどうかを調べる学生もいます。また先輩や友人から譲ってもらおうという話も。単に学生を責めるのも経済状況を考えるとためられます。東京大学では昨年4ターム制を導入していますが、授業期間が細切れになって教科書を2か月しか使用しないことも教科書離れにつながっているおそれがあります。

法科大学院創設の頃の熱い気持ちが薄らいでいるのは残念に思います。

・今月のランキングと注目書籍

ランキングでは定番商品と「憲法」に関する本が売れています。版元として「法律文化社」の健闘が光ります。ランキング外では、飯田高「法と社会科学をつなぐ」(有斐閣、本体¥2100)や松井茂記編著『スターバックスでラテを飲みながら憲法を考える』(有斐閣、本体¥2300)が読みやすいと評判です。その他、藤田宙靖『裁判と法学』(有斐閣、本体¥3300)、木庭頭『法学再入門 秘密の扉』(有斐閣、本体¥4600)、蟻川恒正『尊厳と身分』(岩波書店、本体¥3600)が売れているのも嬉しいことです。

今秋以降、改訂版が続々と刊行され供給が促進されるのが希望です。いずれにしても本当に勉強したい人が報われる環境であってほしいものです。



次号の Bookstore's Voice は  
京大大学生協 ショップルネ